

公共施設の再編に関する意見交換会 概要報告

日時 令和元年6月8日(土)14時00分～15時35分
場所 稲川生涯学習センター 視聴覚研修室
対象地区 稲川地域(稲庭地区、三梨地区、川連地区、駒形地区)

参加者 12人

内 訳	計			20代			30代			40代			50代			60代			70代			80代		
	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女
稲庭地区	2	2	0	0			0			0			2	2		0			0			0		
三梨地区	3	3	0	0			0			0			0			1	1		2	2		0		
川連地区	1	1	0	0			0			0			0			1	1		0			0		
駒形地区	4	2	2	0			1		1	1		1	1	1		1	1		0			0		
その他	2	2	0	1	1		0			1	1		0			0			0			0		
計	12	10	2	1	1	0	1	0	1	2	1	1	3	3	0	3	3	0	2	2	0	0	0	0

市出席者 湯沢市公共施設アドバイザー、
総務部長、企画課長、企画政策班長、担当、協働事業推進課長

概 要

開 会

あいさつ

総務部長



説 明

(企画課)

- ① 公共施設を取り巻く課題
- ② 湯沢市公共施設再編計画中間案の概要



概 要

情報提供

他自治体の取り組みと湯沢市の取り組み（湯沢市公共施設アドバイザー 川嶋幸夫氏）



質疑応答、意見交換



○三梨町自治区では、活動の拠点施設が無いが、今後どのようにするのか地域で話し合っていないため、会でいろいろ話を聞きながら、どのような方法が一番良いのか、急いで模索したい。

⇒（アドバイザー）地域のことは出来るだけ地域の皆さんが協力してやっていくということもこれからの行政経営のひとつの考え方である。地域の活動拠点で様々な活動を展開し、行政はそれをサポートしていく仕組みづくりが必要。どのような形態が一番良いのか、地域の皆さんと一緒に検討していきたい。

⇒（市）稲川地域においては、稲庭地区以外は、自治区の活動拠点として定まった場所はないが、総合支所に職員を配置し活動支援を行なっている。市としては、活動拠点、財政支援、支援職員をセットで支援していくので、今後相談させていただきたい。

○人口減少が続いているが、全国的には、魅力ある学校があるまちでは人口が増えている例がある。稲川地域では小学校の統廃合が予定されていることから、小学校、中学校、高等学校、幼稚園、児童クラブ、運動場など全てをまとめて複合施設にすることはできないか。学校の周りには、田や畑があり、子どもたちに農作業もやらせて、子どもたちとお年寄りが将棋や囲碁などで交流できる場を作ることもいいと思う。インバウンドの外国人のための宿泊施設を一定数確保するとか、魅力ある施設を作ること、全国から人を集めることを検討してほしい。

⇒(市)市では、まち・ひと・しごと総合戦略を策定し、人口減少対策に取り組んでいる。学校、教育を起点に他の地域から人が呼び集められるような施策として参考にしたい。

⇒(アドバイザー)各地域の振興計画があり、そこから交流人口も含め、どうやって外から人を呼び込むことができるか、その為にどんなことを仕掛けていかなければいけないのかというビジョン、経営戦略というのが必要だと考える。稲川地域では、学校統廃合により廃校となる3つの学校を使ってどう地域経営をしていくのか、この稲川地域の現在の課題と、それから将来に向けてどういう夢を描いて、どれをどう実現していくのかという道筋を描くような振興計画が必要である。地域ごとの振興計画を作り、それを地域の皆さんと一緒に動かしていくという仕掛け作りをしていかなければ、人口減少の中で、活力のあるまちにしていくことは難しいと思う。地域ごとの振興計画づくりが動き出すときには、御協力いただきたい。

○一旦廃止が決まると、その後何年か後に再検討し、またそれを変化させた形で復活させることが無い。例えば、施設を集約したとしても、時代は常に変化し、ニーズや人口構成も変化する。例えば20年後に、再度検証して、このままにするか、別のものを建てるかといった、柔軟性も必要でないか。また、既存の施設でも20年位経過した時点で、先々のことも含め、十分な検討をすることが必要だと思う。

⇒(アドバイザー)今回策定する再編計画は、10年間のプランである。目先の利く10年くらいを一つのターゲットにしているが、5年位経った段階で、もう一度見直して、出来たのか、出来なかったのかを検証して、出来ない場合はプランを変更しなければならない場合もある。本当にこのプランが適切なかどうか、都度、流動的に検証、対応していくことも必要である。

⇒(市)計画策定後、チェックしないままにせず、経過報告も含め、市民の皆さんと議論をしながら進めていきたい。場合によっては、途中で見直すことも十分考えられると思う。

○学校の再編について、秋田県の児童生徒の学力が高いのは、少人数学習を進めてきたからだと思う。稲川地区の小学校の統合について、まだ検討中とのことだが、統合ありきで進んでいるように感じている。エアコンの設置について新聞報道があったが、統合を予定する学校とそうでない学校の扱いに差があり、違和感があった。また、現在、教室を改修して特別支援学級を設置している学校があるが、川連小学校に統合した後も同じような対応をしてもらえるのか不安である。

⇒(市)現在は、学校再編計画の素案を公表した段階で、今後、学校関係者、地域の皆さんへ再度説明会や意見聴取の機会を設け、最終的には今年の12月に、今後10年間の計画として成案化する予定である。教育委員会では、小中連携教育と複式学級解消を基本方針にして、適正な学校規模としては、1学級あたり25名程度という考えとのことである。稲川地域においても既に稲庭・三梨小学校で複式学級があるが、令和7年度には、三梨小学校では、さらに1学級増え、駒形小学校でも1学級できることが分かっている。学校へのエアコンの設置に当たっては、電気設備の検討など、学校施設の広い空間でどのようにすれば効率よくできるのかといった調査が必要であり、簡単に進まない状況である。事業費も相当な規模になるため、財源対応も考慮しながら検討しており、学校統合に合わせて行っている訳では無いことを、御理解いただきたい。

○放課後児童クラブについて、他の地域では、外部講師を呼んで将棋を教えていたりすることを広報で知った。稲川地域には2つの児童クラブがあるが、管理者が違うことで、運営方法、子どもたちへの対応にも差があると感じている。統合の動きなどあるのか。

⇒(市)稲川地域の児童クラブは、市の委託事業として2箇所で開催しているが、委託の条件として、当然、遵守すべきことなど約束事がある。いなかわっこ大館教室は、施設の老朽化が課題となっているが、管理運営手法については、移転後の場所の問題も含めて検討を進めている。市としては、基本的には小学校区に1クラブがいいのではないかと考えている。

⇒(アドバイザー)子どもの社会性の確保や学力向上のために、どのような編成が良いのかという考え方がある。また、秋田県の学力水準が高いということは、少人数学習を進めてきた経緯があると思う。文科省では、小規模学校のメリット、デメリット、それから大規模学校のメリット、デメリットを整理しており、湯沢市で、これまで様々な議論をした結果が、今の素案であると思う。あくまでも素案であるので、これから色々な議論の中で、少人数学習はどうなるのか、子どもの学力が落ちないような工夫など、中身についてもチェックしてもらう必要がある。子どもにとって一番いい環境はどうあるべきか、学力向上のためにどういった工夫が出来るのか、そのためにある程度の設備投資も必要であることも考え、どういう着地点が良いのか整理していく必要がある。児童クラブについては、1学校、1クラブが原則となる。その時に一人当たりの面積が、国の基準を確保出来るよう、校舎内、敷地内、周辺の公共施設の順で検討し、子ども達の安全を確保していかなければならない。管理運営方法についても、事業者任せにせず、子どもたちが地域の皆さんと交流できる場や、学習が出来るような仕組みづくりを、地域の皆さんと一緒に考えて行くことも必要だと思える。

○稲川地域の小学校の再編については、10年前から話があったが全く進んでいない。学校再編に関する市の説明会に集まった人はほとんどいなかった(特に父兄)。確かに、少人数学級は良いと思うが、複式学級が増えていく中で、大きくなったときに集団生活に耐えられるのか、また、クラブ活動などにも支障があるので、学校統合は今やらなければならない問題だと思う。成案化までの期間も短く、現段階で反対意見があるようでは、非常に難しい状況でないか。教育委員会は父兄や関係者ともっと話し合いをすべきである。また、この意見交換会の参集方法について、もっと多くの人に参加してもらえよう工夫しなければ意見は出ないのではないかと。

⇒(アドバイザー)教育委員会には、慎重にやりつつも、一番良い着地点を出来るだけ早く見極めていくことが求められていると思う。